

平成25年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	専門分野におけるコミュニケーション力養成の試み
実施組織 (または対象のカリキュラム)	理学部地質科学科
※連携する他学部・機関 がある場合は記入	
実施責任者(所属)	吉田孝紀(理学部地質科学科)
取組の目標	学外専門家の協力の下に、学生の専門知識に裏付けられたコミュニケーション能力の育成を図る
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>1. 地質科学科3年生の地質調査演習での発表機会の拡充。 予備的な巡検をふくむ事前学習(8~9月の2週間)、現地調査(9月の約2週間)、室内作業とまとめ(10月の1ヶ月間)をスケジュール化し、発表や調査を実施した。例年実施している演習ではあるが、例年に比べて巡検や発表機会を増やし、学生が主体的に取り組めるような機会を増やした。</p> <p>2. 企業の専門家の協力の下に、地質調査演習の事前学習、現地調査、まとめの3回において班ごとに発表会を開催した。その結果、学生は自分の言葉で的確に発表し、図を作成するなどの効率よい表現を用いて、わかりやすい議論の方法論を学ぶことができた。</p> <p>3. 教員と外部の専門家が、共に学生の発表を評価するしくみをつくった。また、外部の専門家から専門的なコミュニケーションの方法論についての講演会を開催し(平成26年2月)、コミュニケーションの考え方や実践方法などについて学生が学ぶ機会を作った。</p> <p>4. 実習修了時に評価アンケートを実施し、コミュニケーション能力が向上したかどうかを調査した。アンケート項目の「チームワーク理解」では高い評価が得られたが、「発信力」「柔軟性」についてはいっそうの工夫と取り組みが必要であることがわかった。</p>
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	アンケートや学生からの聴取では、学外専門家の参加は学生のコミュニケーション力を養成する上で非常に効果的な方法であることが示された。学外専門家として招いた企業技術者と学生の双方から、プロジェクトの継続を要望されている。また、当初目論んでいた「発信力」や「柔軟性」については、学生の自己評価はそれほど高くなく、継続的な取り組みが必要と考えられる。今後はグループワークの機会を他の実習にも拡大し、グループ内での議論を喚起させながら、自らの成果や議論の経過を発信するような取り組みを充実させるつもりである。